

# 日医ニュース

No. 1299  
2015. 10. 20



発行所 日本医師会

http://www.med.or.jp/

〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16

電話 03-3946-2121(代)

FAX 03-3946-6295

E-mail wwwinfo@po.med.or.jp

毎月2回 5日・20日発行

定価 2400円/年(郵税共)

トピックス	● 定例記者会見	2~3面
	● 都道府県医師会だより	4面
	● 勤務医のページ	8面

## 平成27年度第2回都道府県医師会長協議会

横倉会長

# 国の財政状況が厳しい中、国民に必要な医療が提供できる診療報酬のあり方を模索



平成27年度第2回都道府県医師会長協議会が9月15日、日医会館小講堂で開催された。

当日は、10月から始まる医療事故調査制度の課題など、道県医師会から事前に寄せられた8つの質問・要望に対して、担当役員が回答した他、日医からは4つの事項について報告を行い、更なる協力を求めた。

### 会長あいさつ

協議会は今村定臣常任理事の司会で開会。冒頭のあいさつで、横倉義武会長は、平成28年度の診療報酬改定について触れ、「現在、改定の財源確保に向け努力を重ねているところであるが、国民皆保険を堅持していくためには、医療側も効果的な医療の提供に取り組んでいく必要がある。国の財政状況が厳しい中でも、国民に必要な医療が提供できるような診療報酬のあり方を模索していきたい」と述べるとともに、「医療機関がどのような医療機能を選択した運営ができる診療報酬体系が必要だ」と強調した。

更に、「年末に向けて、しっかりと国民医療を担っていく」と述べた。

### 協議

#### (1) 在宅専門診療所の要件緩和について

在宅専門診療所の要件緩和は慎重であるべきとする山口県医師会からの質問には、松本純一常任理事が回答した。同常任理事は、中医協では、在宅専門診療所について次回改定の議論の中で検討する予定となっており、一部の新聞報道にあるような合意はしていないとした上で、わが国においては、在宅も施

設も活用する日本型のシステムを構築していく必要がある。日医としては、かかりつけ医の外来の延長としての在宅医療が中心であるべきと考えていると改めて主張。その一方で、今後、かかりつけ医の在宅医療だけでは量的に十分に対応できない場合も想定されることから、かかりつけ医の在宅を補完する仕組みが必要になるとしつつも、安易な制限の見直しはするべきではないとし

#### (2) 准看護師養成問題について

福岡県看護協会が、看護資格の一本化を目的に准看護師養成の停止を目指す活動を行っていることについて、他の都道府県医師会から福岡県医師会への質問には、釜本敏常任理事が回答した。同常任理事は、三重県における事案を説明するとともに、日本看護協会長に対し、日医としては、今後も准看護師の新規養成が必要であると考えている旨、改めて強く主張したことを報告した。また、「平成26年12月末現在、全国で34万人の准看護師が就業しており、その果たす役割は大きいものであるにもかかわらず、平成8年以降、准看護師養成所の新規開設は1校も見られず、准看護師の新規養成数は減少傾向が続いていること」

「現在就業する准看護師の年齢構成は50歳以上の方が多く、今後の就業者は減っていくことが予想されること」に危機感を示し、社会人が新たに看護職を目指す受け皿の一つとして、准看護師養成所が存続できるよう、引き続き全力で取り組んでいくとした。

#### (3) 警察活動に協力する医師の部会について

北海道医師会からの警察活動に協力する医師の部会に関する質問には、松本常任理事が、日医では、警察活動に協力する医師の全国組織化に平成26年度より着手し、本年1月10日に初連絡協議会と学術大会を開催したと説明。現在、警察庁が全国の都道府県警察に対し、検視立ち会い、留置人管理等の業務の委嘱状況、待遇、補償等の実態調査を実施中であり、結果がまとまり次第、「警察活動等への協力業務検討委員会」での検討を再開予定であるとした。

#### (4) 医療事故調査制度：今、見直されるべき医師会のスタンスについて

兵庫医師会からの、①Ai・病理解剖の実施受け入れ等の調整②日本医療安全調査機構、日本医療機能評価機構と日医の関係並びに支援団体の活動に対する公的援助③医療事故調査制度開始後の「検証システム」に関する質問には、今村常任理事が回答した。①については、各地域で「顔の見える関係」の中で連携・調整を図る重要性を指摘。日医では、各地域での支援体制構築について、全国医学部長病院長会議と協力合意することにも、Ai情報センターと症例受け入れ条件等の協議中であり、ご遺体の搬送、保管等の円滑な手配

の謝金と活動中の事故への補償に関する十分な財源確保を警察庁に予算要望しているとした。また、検視立ち会い医への謝金と活動中の事故への補償に関する十分な財源確保を警察庁に予算要望しているとした。

「統括医療法人(仮称)制度」を基に策定されたものであると説明。その上で、同制度では、特定の医療機関による支配を避けるために、参加法人の議決権は1社員1議決権を原則としており、例外的に定款で異なる取り扱いをする場合も、出資額に応じた差別を禁止するとともに、医

#### (5) 医療事故調査等支援団体のランニングコストについて

神奈川医師会からの「医療事故調査等支援団体として、相談業務を24時間体制などで実施する

師会長等の地域の関係者が「新型法人」の理事に最低1人は就任することなどが規定されていることなどを挙げ、「日医として、今後の制度の具体化に当たり、中小病院が大病院に支配されるような不当な事態が起きないように厳しく監視をしていく」と述べ、都道府県・

を守る体制をつくり上げていくための財政措置の実現のためにも、医療界が一丸となって対応していかなければならない」と指摘。今後は、国民医療推進協議会による国民運動を展開するとともに、その一環として、12月9日に東京・日比谷公会堂で国民集会を開催する意向を示し、「都道府県医師会においても、地元選出の国会議員に対する働き掛けを強めるなどの協力をお願いしたい」と述べた。

た。更に、在宅医療を中心に行う医師も地域包括ケアシステムの一員として参加すべきであるが、在宅を企業的にやっているケースに対しては、診療地域や規模をあらかじめ制限しておくなどの対応も必要になると指摘。今後の中医協の議論においても、特に注意して対応していく意向を示し、理解を求めた。

など、国に対する要望を引き続き重ねていくとした他、並行して医師会組織自らによる解決策も検討していくとした。②には、日医役員が他の2団体の重要な役割を担い、密接な関係を築いていることを説明。また、院内事故調査の費用に関しては、医療機関自らの負担とされており、支援団体の活動も公的支援の対象とはされないが、現在、医療機関・支援団体の職員研修を、支援センターから日医への委託事業として実施する方向で協議中であるとした。③については、厚労省に置かれるのが一般的だが、会内に第三者的な検証会議を設けることも検討したいとした。

(1面より) 郡市区医師会に理解と協力を求めた。

(7) 独立行政法人日本スポーツ振興センターへの医療費請求に伴う文書料について

学校の管理下における事故等により提出する書類「医療費等の状況」の文書料に関する滋賀県医師会からの質問には、道永麻里常任理事が回答した。

(8) 平成27年度地域医療介護総合確保基金について

平成27年度地域医療介護総合確保基金に関する長野県医師会からの質問には、釜池常任理事が回答した。

同常任理事は、第一回目以内示の後、厚労省から看護師等養成所運営費補助金など、継続実施が不可欠な既存事業に十分配慮することなどを示した文書が発出されていることを紹介。この文書には、「各事業をどの事業区分に位置づけるか、都道府県は厚労省とよく打ち合わせすべき」という趣旨が込められており、都道府県医師会からもその点を指摘して欲しいと

報告

●マイナンバーと医療等IDについて

その上で、同常任理事は、帳票を作成する医療機関の事務負担の軽減に向けて、昨年度から日本スポーツ振興センターと打ち合わせを重ね、「医療費等の状況」の書類をレセプトコピーで代用する方法を日医から提案し、「問題はない」との回答を得ていることを説明。今後、モデル事業による検証を行い、実務的に可能となれば、レセプトコピーによる請求も可能とする方向で検討したい

石川広己常任理事は、資料「マイナンバーと医療分野における番号」を基に、マイナンバーの利用範囲など、制度の仕組みを説明。医療分野に関しては、取り扱う情報の機微性が高いことから、マイナンバーとは別の医療等分野専用の番号(医療等ID)が必要になると強調した。その上で、現在、会内

要望。日医としても、国庫補助から基金に移行した継続事業については、優先して手当てするように引き続き厚労省に働き掛けていくとした。

また、「都道府県の裁量で事業区分間の額の調整を可能とすべき」との指摘に対しては、「基金の配分が『財務省協議』となっているため困難」となっているため、事業計画の立案の段階での工夫を求めるとともに、「厚労省で基金の柔軟な配分ができるよう、財務省との折衝も含めて強く求めていく」との意向を表明。今後、都道府県が年度の早い段階から基金を活用した事業を実施できるように、本年度の第2回目や翌年度の配分が早期に示されるよう注視していくとした。

の「医療分野等ID導入に関する検討委員会」で医療等IDの発番方法等について検討を行っていることを報告。「日本歯科医師会、日本薬剤師会とも協力し、その創設を目的としていきたい」と述べた。

●水銀血圧計等の回収に関するセミナーについて

羽鳥裕常任理事は、水銀が人の健康や環境に与えるリスクを低減するた

めの包括的な規制を定める「水銀に関する水俣条約」が平成25年に採択されたことから、平成32年以降、水銀を使った製品の製造や輸出入が原則として禁止される見通しであることを報告。

●電子書籍サービス「日医Lib」新機能「都道府県医師会報の配信機能」準備について

そのため、「環境省が水銀血圧計等の回収に向け、9月から11月にかけて、東京、仙台、名古屋、大阪、福岡でセミナーを開催すること」「日医でもセミナーを踏まえて、12月2日に都道府県医師会医療廃棄物担当理事連絡協議会を日医会館で開催すること」などを紹介し、積極的な参加を呼び掛けた。

●日医会員情報システムの再構築について

今村常任理事は、会員情報システムの再構築に関して、その目的は都道府県医師会との相互利用による会員サービスの向上にあるとし、都道府県医師会と繋がるシステム環境を構築するため、クラウド化を図ることとしたと説明。

その第一段階として、①「日医が管理している会員情報を一元化し、都道府県医師会と情報を共有」「都道府県医師会に、新規入会等の会員情報を仮登録してもらうこと」で入退会・異動処理のタイムラグの短縮を目指すとしている②新システムの本稼働は来年の2月29

日を予定している——ことなどを報告し、「当分の間は、日医単独での運用を予定しているが、対応可能な医師会から順次ご協力をお願いしたい」と要望した。

●電子書籍サービス「日医Lib」新機能「都道府県医師会報の配信機能」準備について

小森貴常任理事は、電子書籍サービス「日医Lib」に「都道府県医師会報」の配信機能を追加する準備を進めていることを報告。カラーページの数や総ページ数によっても費用は変わってくるが、初期費用は10~15万円になると説明した。

その上で、「これにより、若手医師が気軽に医師会の情報に触れることができるようになることを考えている。日医から近々のうちに案内を送付するので、ぜひ検討して欲しい」とした。

なお、協議に先立って、小松満次郎城東医師会会長、太田照男栃木県医師会会長、嘉数研二宮城県医師会会長から、台風18号の被害状況の説明とともに、日医始め都道府県医師会からの支援に対する感謝の言葉が述べられた。その他、小松次郎城東医師会会長は、マタニティハラメントにより、男女雇用機会均等法に基づい

て、同県医師会の会員のお掛けしたことを陳謝し「たい」と述べた。その上で、県医師会として引き

続き、医の倫理の向上に努めていくとの考えを示した。

て、財務省や支払側の厳しい攻防が予想されるが、中川俊男副会長と共に、診療側の主戦手である松本純一常任理事をしっかりと支えていくと決意を述べた。



9月30日

日医 定例記者会見

中医協委員に

松原副会長



横倉義武会長は、10月29日に3期6年の中医協委員としての任期を満了する鈴木邦彦常任理事の後任として、松原謙二副会長を厚生労働省に推薦することを決めたことを明らかにした。

市で診療所を開設している他、平成18年度の診療報酬改定において、中医協委員として重要な役割を果たしたこともあり、今後の中医協の議論の中でその経験が大いに役立つと考えている」とする

と、引き続き努力していく考えを示した。同会長は、まず、安倍

安倍総理が打ち出した「新3本の矢」を

高く評価

同会長は、後任の委員に求められることとして、①地域包括ケアを構築していくに当たって、診療所の役割がますます重要になるが、現在の診療側の委員は病院関係者が多かったため、診療所を実際に開設し、より地域の実情を熟知している医師であること②現在、日医推薦の委員が2人も、外科系であるため、内科系であること——が必要だと考えていたと説明。その上で、松原副会長については、「大阪府池田

横倉会長は、安倍晋三内閣総理大臣が9月24、25日に行った記者会見の中で、豊かで活力あふれる日本をつくるための方策として打ち出した「新3本の矢」(「希望を生み出す強い経済」「夢をつむぐ子育て支援」「安心につながる社会保障」)を高く評価したいとする

と、引き続き努力していく考えを示した。同会長は、まず、安倍

「新3本の矢」(「希望を生み出す強い経済」「夢をつむぐ子育て支援」「安心につながる社会保障」)を高く評価したいとする

と、引き続き努力していく考えを示した。同会長は、まず、安倍

と、引き続き努力していく考えを示した。同会長は、まず、安倍

# ミャンマー政府及び ミャンマー医師会と協議 —国民皆保険及び災害医療について—



CMAAOミャンマー総会に先立って、ミャンマー政府及びミャンマー

厚生労働省の代表者らと、ミャンマー政府及びミャンマー医師会との協議が9月23日に行われ、日医から横倉義武会長、笠井英夫常任理事、阿部計大医師（JMA-JDN代表）が出席した。

本協議はミャンマーの医療の将来について、ミャンマー保健省のティン・ティン・テ副大臣から横倉会長に日医への協力要請があったことを受けて開催されたものである。

当日は、日医関係者の他、日本側から厚生労働省医政局の土生栄二総務課長、

山田純市総務課医療国際展開推進室長補佐、在ミャンマー日本国大使館、JICAミャンマー事務所の関係者が、ミャンマー側からミャンマー医師会のレイ・ムラ会長、ソウ・ウィン事務局長、保健省のティン・ウィン国際部長が、それぞれ出席した（出席予定であったティン副大臣は、洪水被害への対応関連のため欠席）。

協議の中で、ミャンマー保健省は日医に対して、国民皆保険の導入及び災害医療への取り組み

力開発への協力を要請。横倉会長は、医療の国際貢献の推進の一環として、ミャンマーにおける国民皆保険の導入並びに医療人材の能力開発について、今後協力していく意向を示すとともに、災害医療への備えとして、DMATやJMATによる被災地医療支援の実績を紹介。「DMATは厚労省の管轄下における活動であり、人材の能力開発における協力及び具体的な相談・協議を行うことができるのではないか」とした。

山田純市総務課医療国際展開推進室長補佐、在ミャンマー日本国大使館、JICAミャンマー事務所の関係者が、ミャンマー側からミャンマー医師会のレイ・ムラ会長、ソウ・ウィン事務局長、保健省のティン・ウィン国際部長が、それぞれ出席した（出席予定であったティン副大臣は、洪水被害への対応関連のため欠席）。

力開発への協力を要請。横倉会長は、医療の国際貢献の推進の一環として、ミャンマーにおける国民皆保険の導入並びに医療人材の能力開発について、今後協力していく意向を示すとともに、災害医療への備えとして、DMATやJMATによる被災地医療支援の実績を紹介。「DMATは厚労省の管轄下における活動であり、人材の能力開発における協力及び具体的な相談・協議を行うことができるのではないか」とした。



カントリーレポートでは、横倉会長が、高齢者ケアを中心とした地域包括ケアシステムの構築、健康寿命延伸に向けた各種連携の推進による「生涯保健事業」の体系化、

国内、国外の災害医療に対する取り組み、iJMAT構想に基づく協定の締結等について報告した。25日の総会全体会議では、「食の安全の確保に関する決議」の審議が行われ、横倉会長から「食の安全」の前に「安全な水の確保」が優先されるべきとの発言があったことを踏まえて、その前文が修正され、全会一致で当決議は採択された。

また、2017年の第32回CMAAO総会を日本で、2018年の第33回総会をマレーシアでそれぞれ開催することが承認された。

2015-2017年の役員指名では、次期会長にラサート・サルンピバットタイ医師会長が、財務担当役員にアルビン・チャン香港医師会副会長がそれぞれ指名された。また、常設委員会では、決議委員会に委員長としてインド医師会が加わった他、加盟推進委員会では、中国、ベトナム、ラオス、ブルネイ、フィジーの各国医師会に加盟を呼び掛けることになった。なお、2016年タイ総会では、9月14日から16日までカンチャナブリー県のデーヴァ・マントラ・リゾートにおいて、シンポジウムのテーマを「医学ジャーナル・教育連携及び研究における活用の鍵」として、開催されることとなった。

## アジア大洋州医師会連合（CMAAO） ミャンマー総会

### 横倉会長、石井・笠井両常任理事が出席



参加医師会には18医師会中14医師会（日本、オーストラリア、バングラーデシュ、香港、インド、インドネシア、韓国、マレーシア、ミャンマー、ネパール、フィリピン、シンガポール、台湾、タイ）で、欠席は、カンボジア、ニュージーランド、スリランカ、マカオであった。総会出席者は約60名、来賓としてアーデイス・ホヴエン世界医師会議長、オトマー・クロイバー世界医師会事務総長が招待された。

23日の開会式では、新会長にミャンマー医師会のレイ・ムラ会長が就任した。理事会では、石井常任理事による事務総長報告の後、議長・副議長選挙では、議長にドン・チュン・シン韓国医師会国際委員会委員長が、副議長にヤイ・ウェイ・チンシンガポール医師会第1副会長がそれぞれ再選され、事務総長に石

「包括ケアシステムを構築していくことが重要になると指摘。更に、同会長は、地域の医療提供者を代表する医師会が、行政と連携しながら、システムの構築に主体的な役割を果たしていく必要がある」とし、日医としても、全国の地域医師会が地域包括ケアシステムの構築に積極的に関わることを引き続き支援していくとした。

安倍総理が打ち出した「予防に重点化した医療制度への改革」に関しては、乳幼児期から子育て期、就労期、高齢期にわたる各種保健事業を体系化し、生涯保健事業として再構築することが肝要であると指摘。

また、「企業による健康経営、健康投資を促す仕組み」についても、「日本健康会議」に参画し、予防・健康づくりの推進などの観点から、積極的に関与していくとした。

「介護離職ゼロ」を目指して施設整備や介護人材の育成を進めるとした。ことについては、平成27年度の介護報酬改定が大幅なマイナスとなり、介護施設・事業所の経営状況が厳しくなっていることを説明。今後は、経営基盤の安定に繋がるしつかりとした財源の確保が必要になるとした。

「新3本の矢」の一つである「夢をつむぐ子育て支援」については、①2006年に「子ども支援日本医師会宣言」を宣言した他、母子保健講習会を開催するなど、少子化対策を推進してきたこと

また、「1億総活躍社会」づくりに取り組むために担当大臣を新設し、その下に国民会議を設置する考えを示したことに関しては、「これまでの日医の活動を踏まえ、国民会議で地域医療の現場からの意見が反映されることを望みたい」と述べた。

また、2017年の第32回CMAAO総会を日本で、2018年の第33回総会をマレーシアでそれぞれ開催することが承認された。

任理事、村田真一弁護士（CMAAO法律顧問）、阿部計大医師（JMA-JDN代表）が出席した。

23日の開会式では、新会長にミャンマー医師会のレイ・ムラ会長が就任した。理事会では、石井常任理事による事務総長報告の後、議長・副議長選挙では、議長にドン・チュン・シン韓国医師会国際委員会委員長が、副議長にヤイ・ウェイ・チンシンガポール医師会第1副会長がそれぞれ再選され、事務総長に石

日医からは、笠井常任理事が、「日本における食品安全の取り組み」と題して、日本の食品安全に対する取り組みを概説するとともに、日医の食品安全に関する一連の活動、環境汚染による食を通じた健康被害の歴史と対策等について紹介した。

また、2017年の第32回CMAAO総会を日本で、2018年の第33回総会をマレーシアでそれぞれ開催することが承認された。

# 都道府県医師会だより



## 臨床研修医交流会を県と共同で 開催

— 栃木県医師会 —



「医師会入会者を一人でも増やそう」という目標に向けた第一歩として、まず、「医師会や県が研修医との交流を深め、異なる医療機関に勤務する研修医同士の交流を深める」ところからスタートしようという趣旨で、「臨床研修医交流会」を、栃木県医師会と栃木県が共同で開催することを企画した。

初期臨床研修医が勤務している基幹型臨床研修病院は、栃木県内に10カ所ある。これらの医療機関から指導医の代表の方に運営委員として参加して頂き、研修医にとって興味ある企画を検討した。さまざま検討を重ねた結果、7月10日(金)に初めて「臨床研修医交流会」を開催する運びとなった。

当日は、初期臨床研修

医66名を含めた総勢105名の参加者で賑わった。太田照男栃木県医師会長と福田富一栃木県知事のあいさつから始まり、宮原保之同県医師会常任理事が「栃木県医師会の活動」について、森澤隆栃木県保健福祉部医療政策課長が「栃木県の取り組み」について、それぞれ紹介を行った。

メインイベントの特別講演は、生坂政臣千葉大学医学部附属病院総合診療部教授に、「GMカンファレンス in 栃木ーhall park diagnosisー」と題して講演頂いた。

一部の指導医も参加しつつ、研修医全員に「高校生クイズ」形式の二者択一問題を5題出題し、勝ち残った4名の研修医に対して、「ドクターG」形式での講演が行われた。どちらの形式の講演も大変好評で、会場は熱気に包まれていた。

特別講演終了後は、会場を移して懇親会を実施した。懇親会では、各医療機関から研修医の紹介

## 最近の新たな取り組み

— 鳥取県医師会 —

### 指定学校医制度を開始

学校保健の専門医として活動し、学校保健の質の向上と自己研鑽に役立つ制度を目的として、「鳥取県医師会指定学校医制度」を平成27年4月にスタートさせた。本制度では、一定の研修(単位)を受けた学校医に「鳥取県医師会指定学校医」の称号を付与し、「学校医手帳」を発行して研修会や学校保健活動を記録して頂き、3年ごとの更新制としている。

社会環境の変化に伴い、学校保健活動の中心的役割を受け持つ学校医は、今までの健康診断を

行っており、初対面の研修医同士が交流を深めることができるように配慮した。

4名の勝ち残った研修医には、後日、県医師会からプレゼントが贈られることも発表され、懇親会も特別講演を上回る賑わいだった。懇親会では、アルコールも入るので、各医療機関まで送迎車を手配しておいたことも、成功の一因だったようである。

来年も多くの研修医に参加してもらえようように、企画を工夫していきたいと考えている。

含む保健管理という視点から「保健教育」への関わりを視点を広げて、学校保健委員会等の保健組織の活動にも積極的に参加すべきであり、関わる必要がある。

もちろん、指定学校医でなければ学校医ができないわけではないが、専門家としての適切な助言・指導を行うためにも、全ての学校の先生に



毎月1回開催している市民向け講演会

問題だが、学校医同士のネットワークを重視し、今後も先を見通した学校医像・制度を考えていきたい。

### 「事業評価のためのがん検診チェックリスト(個別検診・検診機能用)」策定に向けたパイロット調査に参画

「健康に関する諸問題の調査研究と県民健康の保持増進に寄与する」ことを目的として、鳥取県鳥取大学医学部、鳥取県医師会の三者構成で昭和46年1月に発足した「鳥取県健康対策協議会(健対協)」が各種がん検診の精度管理を行っており、県医師会が健対協の事務局を担当している。

健康増進事業に基づいたがん検診のうち、集団検診の精度管理指標として「事業評価のためのチェックリスト」が平成20年に公表され、既に自治体や検診機関が運用している。

しかし、近年増加傾向にある個別検診では、精度管理指標となるチェックリスト自体がまだ作成されておらず、精度管理が十分でない実態が明らかになってきた。

そこで国立がん研究センターでは、厚生労働省「がん検診のあり方に関する検討会」等への提案を前提に、個別検診用のチェックリスト案を新たに策定した。

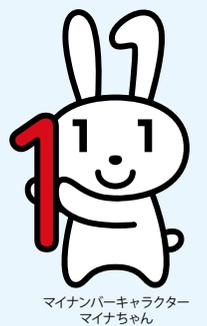
## マイナンバー制度について

平成28年1月から、社会保障、税、災害対策における行政手続きにおいて、マイナンバー制度が開始されます。

病院・診療所・医師会等も民間事業者としての対応が求められます。

マイナンバー制度については、日医ホームページ・メンバーズルーム(医師会活動について)をご覧ください。

メンバーズルーム <http://www.med.or.jp/japanese/members/>



マイナンバーキャラクター マイナちゃん

この新チェックリスト案について、項目の適切性や運用上の問題点を検討するため、一部地域で実際に医療機関の回答を得るパイロット調査が実施されることとなり、健対協では大腸がん検診及び肺がん検診について調査に協力した。

医師・看護師等医療従事者の定着促進を図り、医療の安全を確保することを目的としており、主な事業としては、勤務環境改善に取り組む医療機関をサポートするためのアドバイザーとして社会保険労務士を常時配置し、医療機関からの相談を受け付けている。

また、働きやすい職場づくりに取り組む医療機関からのニーズにより、社会保険労務士や医療経営コンサルタントなどのアドバイザーを派遣し、無料で相談に応じている。

その他、労務管理に関する研修会等を実施する際の講師派遣、勤務環境改善に関する調査や情報提供等を行うことになっている。

### 受託事業医療勤務環境改善支援センターを開設

医療法の改正により医療従事者の勤務環境改善に関する規定が新設されたことに伴い、鳥取県からの委託事業として本年4月1日、センターを開設した。

日本医師会  
秘書課 03-3942-6494・人事課 03-3942-6493・庶務課 03-3942-6481・企画課 03-3942-6477・施設課 03-3942-7027・総務課 03-3942-6486・広報・情報課 03-3942-6483/03-3942-6490  
介護保険課 03-3942-6491・年金・税制課 03-3942-6487・生涯教育課 03-3942-6139・編集企画室 03-3942-6140・情報サービス課 03-3942-6482・医学図書館 03-3942-6489

# 南から北から

広島県 佐伯地区医師会会報 No.500号より  
**進化するトイレ**  
田辺 道子

先日、保育園で聞いた話。入園してきた児が、蛇口の下に手を出したまま立ち尽くしていたという。水が出てこない。園の蛇口は自動ではないので、どうしたらよいのか分からなかったのだ。

数年前に小学校の先生から聞いた話。便器に便だけが、そこにトイレペーパーはなかった。先生方が集まってこの生徒はどのようにしてお尻を拭いたのだろうかとの議論になったという。きつと、自宅ではウォシュレットでお尻を洗い乾燥させているので、紙で拭くことを知らなかったのではないだろうか、という話になったこと。

青森県 南黒医師会会報 第81号より  
**恥ずかしいやら、情けないやら**  
兼平 二郎

夜中にふと目が覚め、妙に目がさえることがあった。色々なことが脳裏をよぎるが、特に思わず笑ってしまふ、「なぜあんなことをしてしまったんだろう？」という出来事が鮮明に思い出される。

その1 優しい先輩  
医局にいた頃、夜の11時頃だったろうか、ようやく仕事を終えて向かいの駐車場へたどり着いた。季節は冬、車にはドッサリと雪。「これが津軽の大変なところ」などと言いつつ、せせと雪を降ろし終えた頃に背後に足音。いぶかしげに「先生……どうもすみません」と声を掛けられた。

その2 グリーンシート  
学会でよく列車の旅を楽しむ。少しだけリッチな気分を味わうのと煩わしさから解放されたいためにグリーン席で足を伸ばす。その日も席はガラ

デザインが変わっていい。製品の目新しさ・便利さが強調され、「人に優しいデザインです」という言葉で全てが許されているように思う。次世代を担う子どもたちの能力を奪うことなく、世界中からの観光客にも分かりやすいものを、各メーカーが協力して考えて欲しい。

人は不便な環境を改善しようとする中で進化してきた。便利さばかりを求め、誰かがつくった快適な環境をただ享受しているだけでは、進化は止まってしまふ。

1年後輩のT先生であった。「あれ、先生どうしたの？」と言いつつ先生の視線の先を追うと、今まさに最後の雪が払われようとしているこの豪華な車は何と私のじゃあない。「ひょっとしてこれ、T先生の……車？」なんと優しい先輩なのだろう。

一瞬後、周囲四方に2人の笑い声が響き渡ったのだった。

その3 クリーニング  
学会中のホテルでこのこと、弁当の味など分かるはずもなかったのだ。

犬達の一部は社会に貢献している。盲導犬、介助犬、警察犬、麻薬犬など広い範囲で活躍中だ。家庭内では番犬、愛玩犬として活躍している。

私の場合、紙上では到底載せることのできない失態、失敗は山のようにある。緊張した日常でのちょっとした失敗は、失笑と共に一寸の安堵を感じる。

犬、キジ、カラスなどを追いかけてはならない。更に身勝手にマーキングすることも禁止だ。このたぐさんの禁止事項を学習して、ボールも探させる。大変だ。私の愛犬「桜」にはとてもしつづられる代物ではない。忘れていたが、社会には犬嫌いの人も結構いらっしゃる。愛犬家を受け入れるゴルフ場と受け入れないゴルフ場に分かれてくるだろう。買った金額で会員権を買ったと言ったクレームがたくさん出てくる可能性がある。

「あれ、先生どうしたの？」と言いつつ先生の視線の先を追うと、今まさに最後の雪が払われようとしているこの豪華な車は何と私のじゃあない。「ひょっとしてこれ、T先生の……車？」なんと優しい先輩なのだろう。

その2 グリーンシート  
学会でよく列車の旅を楽しむ。少しだけリッチな気分を味わうのと煩わしさから解放されたいためにグリーン席で足を伸ばす。その日も席はガラ

その3 クリーニング  
学会中のホテルでこのこと、弁当の味など分かるはずもなかったのだ。

犬達の一部は社会に貢献している。盲導犬、介助犬、警察犬、麻薬犬など広い範囲で活躍中だ。家庭内では番犬、愛玩犬として活躍している。

私の場合、紙上では到底載せることのできない失態、失敗は山のようにある。緊張した日常でのちょっとした失敗は、失笑と共に一寸の安堵を感じる。

犬、キジ、カラスなどを追いかけてはならない。更に身勝手にマーキングすることも禁止だ。このたぐさんの禁止事項を学習して、ボールも探させる。大変だ。私の愛犬「桜」にはとてもしつづられる代物ではない。忘れていたが、社会には犬嫌いの人も結構いらっしゃる。愛犬家を受け入れるゴルフ場と受け入れないゴルフ場に分かれてくるだろう。買った金額で会員権を買ったと言ったクレームがたくさん出てくる可能性がある。

「あれ、先生どうしたの？」と言いつつ先生の視線の先を追うと、今まさに最後の雪が払われようとしているこの豪華な車は何と私のじゃあない。「ひょっとしてこれ、T先生の……車？」なんと優しい先輩なのだろう。

その2 グリーンシート  
学会でよく列車の旅を楽しむ。少しだけリッチな気分を味わうのと煩わしさから解放されたいためにグリーン席で足を伸ばす。その日も席はガラ

その3 クリーニング  
学会中のホテルでこのこと、弁当の味など分かるはずもなかったのだ。

犬達の一部は社会に貢献している。盲導犬、介助犬、警察犬、麻薬犬など広い範囲で活躍中だ。家庭内では番犬、愛玩犬として活躍している。

私の場合、紙上では到底載せることのできない失態、失敗は山のようにある。緊張した日常でのちょっとした失敗は、失笑と共に一寸の安堵を感じる。

犬、キジ、カラスなどを追いかけてはならない。更に身勝手にマーキングすることも禁止だ。このたぐさんの禁止事項を学習して、ボールも探させる。大変だ。私の愛犬「桜」にはとてもしつづられる代物ではない。忘れていたが、社会には犬嫌いの人も結構いらっしゃる。愛犬家を受け入れるゴルフ場と受け入れないゴルフ場に分かれてくるだろう。買った金額で会員権を買ったと言ったクレームがたくさん出てくる可能性がある。

兵庫県 尼門二ユース 第538号より  
**ゴルフ犬**  
大原敬太郎

犬達は社会に貢献している。盲導犬、介助犬、警察犬、麻薬犬など広い範囲で活躍中だ。家庭内では番犬、愛玩犬として活躍している。

私の場合、紙上では到底載せることのできない失態、失敗は山のようにある。緊張した日常でのちょっとした失敗は、失笑と共に一寸の安堵を感じる。

その2 グリーンシート  
学会でよく列車の旅を楽しむ。少しだけリッチな気分を味わうのと煩わしさから解放されたいためにグリーン席で足を伸ばす。その日も席はガラ

その3 クリーニング  
学会中のホテルでこのこと、弁当の味など分かるはずもなかったのだ。

犬達は社会に貢献している。盲導犬、介助犬、警察犬、麻薬犬など広い範囲で活躍中だ。家庭内では番犬、愛玩犬として活躍している。

日本医師会女性医師支援センター

# 女性医師バンクから

## Woman Doctor Bank

### 女性医師支援センター事業ブロック別会議

日本医師会女性医師支援センターでは、地域からの声をお聞かせ頂くと同時に、女性医師支援センター事業へのご理解を深めて頂くという双方向による情報の伝達並びに各地域内での情報交換の機会として、平成21年度より標記会議を全国6ブロックにて開催している。

今年度も、引き続き、各ブロックでの開催をお願いしており、開催日程は以下のとおりである。女性医師支援を進めるため、積極的な参加をお願いしたい。

#### ◇九州ブロック（担当：宮崎県医師会）

日時：10月31日（土）14時～16時  
場所：宮崎市内ホテル

#### ◇中国四国ブロック（担当：岡山県医師会）

日時：11月14日（土）15時～17時30分  
場所：岡山コンベンションセンター

#### ◇北海道・東北ブロック（担当：福島県医師会）

日時：11月21日（土）15時～17時  
場所：コラッセふくしま

#### ◇近畿ブロック（担当：兵庫県医師会）

日時：11月28日（土）15時30分～17時30分  
場所：神戸市内ホテル

#### ◇中部ブロック（担当：三重県医師会）

日時：12月20日（日）13時35分～15時35分  
場所：名古屋市内ホテル

#### ◇関東甲信越・東京ブロック（担当：日本医師会）

日時：平成28年1月23日（土）15時～17時  
場所：日本医師会館

#### 登録件数

求人1,091件（延べ4,911件）、求職187名（延べ756名）、  
就業及び再研修決定441件（平成27年9月30日現在）

問い合わせ先 女性医師支援センター（女性医師バンク）  
☎03-3942-6512 ☎03-3942-7397

### 日本医師会テレビ健康講座（北海道）

## 「北海道発 がんは防げる。～医療の連携と地域の支援～」をテーマに

「日本医師会テレビ健康講座―ふれあい健康ネットワーク」の収録が9月12日、北海道医師会並びに北海道文化放送の協力の下、札幌市内のスタジオで行われた。

本事業は、地域医療における地域医師会の役割を住民に理解してもらうことを目的として、平成元年から実施しているもので、今回が今年度最初の収録となった。

番組では、「北海道発がんは防げる。医療の連携と地域の支援」をテーマに、早期発見・早期治療のためのがん検診

の推進やがん患者のサポートなど、北海道医師会が道民向けに行っているさまざまな取り組みを具体的に紹介するとともに、最先端のがん治療についても分かりやすく解説するなど、道民に早期に検診を受けることの重要性を訴えるものとなった。

VTTRでは、まず、毎年5万人前後が亡くなると言われている胃がんについて、浅香正博北海道大学大学院医学研究科がん予防内科学講座特任教授が、「胃がんの原因の98％はピロリ菌の感染によるものであり、適切な除菌処置を行うことで予防の可能性がある」と解説。ピロリ菌に関しては、道南、渡島半島南西部にある福島町で、小笠原実渡島医師会長（小笠原内



科消化器科クリニック院長）が、中学生を対象に実施している胃がん予防のためのピロリ菌検査も紹介し、若いうちから健康を意識することの重要性を指摘した。

その他、白土博樹北海道大病院陽子線治療センター長は、最先端のがん治療として、北大が開発した「動体追跡陽子線治療装置」を紹介。「放射線をピンポイントで照射できるようになったため、安全性の面から治療し切れなかった小さながんも治せるようになった」と説明した。

番組に出演した長瀬清北海道医師会長は、がんの罹患率・死亡率が高く、検診率が低いという北海道の現状を憂慮。その上で、「がんは自覚症状がなく、症状が出た時には既に進行している場合が多いが、早期発見できれば適切な治療ができ、がんが原因の死亡を減らすことができる」として、早期発見・早期治療の重要性を改めて強調した。

また、石川広己常任理事は、がんに対する関心を高め、早期発見・早期治療を推進する北海道医師会の取り組みを高く評価するとともに、来年1月からは始まる全国がん登録制度に触れ、「より良いがん医療を受けられるように体制が整備されることになる」として、がん検診の早期受診にもつながることに期待感を示した。

なお、番組は10月3日（土）に、北海道文化放送で30分番組として放送された。

# 案内

## 平成27年度家族計画・母体保護法指導者講習会

◆主催：日医・厚生労働省  
 ◆日時：11月28日(土) 午後1～4時  
 ◆場所：日医会館大講堂  
 ◆参加費：無料  
 ◆申込方法：都道府県医師会を通じて行う。  
 ◆申込締切：11月10日(火)  
 ◆主なプログラム  
 ・講演  
 「わが国の成育医療の課題と健やか親子21の果たす役割」(五十嵐隆国立成育医療研究センター理事(長))  
 ・シンポジウム  
 テーマ「若年妊娠について」

①若年妊娠の全体像と課題(仮) (安達知子総合母子保健センター愛育病院長・産婦人科部長)  
 ②若年妊娠者に対する社会的支援(仮) (水主川純聖マリアンナ医科大学病院産科副部長)  
 ③性教育の重要性(仮) (種部恭子女性クリニックWe・富山院長・富山県医師会常任理事)  
 ④性教育の重要性(仮) (種部恭子女性クリニックWe・富山院長・富山県医師会常任理事)

⑤指定発言―行政の立場から(一瀬篤厚労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課長)  
 ◆問い合わせ先：日医地域医療第三課(03-3942-8181)(直)

※当日、会館内に託児所を設置予定。利用希望者は、申込時にご連絡願いたい。

## ハーバード大学公衆衛生大学院 武見国際保健プログラムのフェロー募集

武見プログラムは、1983年に武見太郎元日医会長の構想である「医療資源の開発と配分」に着目したハーバード大学が、日医の協力の下に同大学公衆衛生大学院に設置したもので、世界各国より毎年10名程度の中堅の専門家・研究者がフェローとして選考され、研究活動を行っている。今年も下記のとおり、2名のフェローを募集する。

◆応募資格：原則として40歳未満の医師または保健医療分野の研究者。ただし、現在米国に滞在の方、他の団体等から奨学金を受けている方は、応募対象とならない。  
 ◆派遣期間：平成28年8月15日(金)(消印有効)～5/31(日) (直)

◆問い合わせ先：武見国際保健プログラム事務局 (03-3942-8181) (直)

## しゅじり先生

某民放局に「しゅじり先生 俺みたいになるな」という番組がある。有名人が自身のさまざま失敗談を、教訓を含め紹介していく。当然、暗い話が多いはずだが、見終わってもあまり重苦しい気持ちにならない。番組構成のなせる技だろう。

来沖当初「私も、平安山」「仲村憲」などの名字が読めず、「へいあんやまさん」、「なかむら？」と

んと呼び、苦笑を誘ったものだ。私達の周囲では、ヒヤリ・ハット事象の報告などが、自身の「しゅじり」を報告する機会の代表だ。しかし、医療の領域では、当然のことながら関係者が真剣に再発防止対策に取り組む。1回の重大事故の背後には、29回の軽微な事故があり、更にその背後には約300回のヒヤリ・



ハット(小さなしゅじり)が隠れているとよく聞くとだ。最近、診療中に、患者さん達の、医療の不確実性への理解不足、無理解を感じる。医療行為に関しては、たとえそれが不可抗力によるものであっても、患者サイドへの不利益の存在自体を許さないという風潮だ。困ったものである。そんな中、10月1日から医療事故調査制度が始まった。予期しない死亡事故などが起きた場合に、医療機関の管理者は「医療事故調査・支援センター」に報告し、同時に院内でも事故調査を始めなければならない。小規模クリニックでは、自院だけでは不可能なため、県医師会の助力が必要だ。この制度が、医療側の責任追及のみに使われることが決まらないよう運用が切に望まれる。(◎)

## 書籍紹介

肛門基本術式の実際  
 痔核・痔瘻・裂肛  
 岩垂純一 著



本書では、基本術式として、痔核の結紮切除術、痔瘻の切開開放術などを取り上げ、筆者の長年の経験から得た術式への工夫やこだわりを、豊富なイラストとコラムで徹底的に解説しており、大変有用な一冊と言える。定価 10260円(税込)

## 第2回 医師たちによるクリスマス・チャリティコンサート 鑑賞者募集

日医では、昨年に引き続き、日医会員を含むユニットが演奏する、チャリティを目的とした「第2回医師たちによるクリスマス・チャリティコンサート」を開催する。

都道府県・郡市区医師会のご協力の下、出演希望を募ったところ、定数を大きく上回る応募があり、選考の結果、出演ユニットが決定した。コンサートは、下記のとおり開催するので、ぜひお申し込み願いたい。

●日時：12月13日(日) 午前11時30分開場・12時開演  
 ●場所：日医会館 大講堂 (東京都文京区本駒込2-28-16)  
 ●入場料：無料(ただし、当日、会場にて募金を募る。集まった募金は、小児難病の患者団体への寄付を予定している)  
 ●申込方法：鑑賞希望者は、日医ホームページ(メンバーズルーム)から専用申込用紙をダウンロードするか、必要事項(①郵便番号②住所③氏名④入場券枚数⑤電話番号⑥FAX番号(FAXで申し込みをする方のみ))を漏れなく記入の上、「クリスマス・チャリティコンサート鑑賞希望」と明記し、FAX、メール、郵送のいずれかの方法により、申し込み願いたい。申し込みされた方には、後日、入場ハガキを送付する。ただし、申込希望が多数の場合は先着順とし、定員になり次第締め切る。  
 ●申込締切：12月8日(火) 必着

【出演ユニット】  
 <ポピュラー部門>  
 Nossa Bossa Nova (神奈川県)  
 Gifu HOT SURGEONS (岐阜県)  
 TUMBAO (兵庫県)  
 浪夢 (長崎県)  
 <クラシック部門>  
 山口慶子 (宮城県)  
 東京ドクターズカルテット (東京都)  
 小田原医師会合唱団 (神奈川県)  
 愛知県医師会交響楽団有志 / Aichi Doctor Soloists (愛知県)  
 Joy's Trio (愛知県)  
 ヴィヴァーチェ (京都府)  
 Samuser (福岡県)

【特別出演】ギンズ(国会議員バンド)  
 【プロゲスト】東儀秀樹(雅楽師)  
 【司会】橋谷能理子(フリーアナウンサー)

●申し込み・問い合わせ先：  
 日医 年金・税制課 クリスマス・チャリティコンサート係  
 [〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16 ☎03-3946-2121(代)、☎03-3942-6503、✉xmascc@po.med.or.jp]  
 ※未就学児童の入場は、ご遠慮下さい。

肛門手術は、アッペ・ヘモ・ヘルニアと総称されるように外科の初歩的な手術の一つとされ、術式自体は極めて単純であり、独自の工夫や配管が、手術を成功させる上で大きな要素を占める。また、単に病変を切除すればよいのではなく、肛門の機能温存、形成面への配慮が必要だけでなく、症例ごとに病変の

程度、括約筋の強弱、肛門の深さなどが違うため、微妙な加減が求められる。学会や論文では、新しい治療法・術式が次々と登場して注目を浴びているが、まずは基本術式を習得し、しかる後に新しい治療法・術式を試みるべきであろう。

発行 金原出版株式会社  
 03-3811-7184

